

TDX1700

取付説明書

090003-3102A700

お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

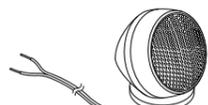
—販売店様へ—

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

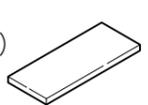
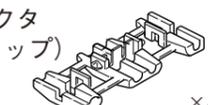
構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

● 本体関係

① スピーカ  ×2	② トゥイータ  ×2	③ ネットワークボックス  ×2
④ スピーカコード(5m)  ×2		

● 取付用部品関係

⑤ 両面テープA (トゥイータ用)  ×2	⑥ 両面テープB (トゥイータ用)  ×2	⑦ ブラケットA (トゥイータ用)  ×2
⑧ ブラケットB (トゥイータ用)  ×2	⑨ 両面テープ (ネットワーク用)  ×2	⑩ クッション (8×550)  ×2
⑪ クッション (10×550)  ×2	⑫ タッピングスクリュ (ネットワーク固定用) (φ4×12)  ×4	⑬ タッピングスクリュ (スピーカ用) (φ6×25)  ×8
⑭ タッピングスクリュ (スピーカ用) (φ5×25)  ×8	⑮ タッピングスクリュ (スピーカ用) (φ4×20)  ×8	⑯ タッピングスクリュ (トゥイータ用) (φ3×14)  ×4
⑰ 平座金 (φ10×φ4)  ×8	⑱ バンドクランプ  ×4	⑲ ショートコネクタ (エレクトロタップ)  ×4
⑳ スピードナット(φ3)  ×4	㉑ 六角レンチ  ×1	

※その他の構成部品(取付説明書、保証書などの資料類)

作業の進め方

- 1) 構成部品の確認 (☞構成部品)
- 2) バッテリーの⊖端子を外す
- 3) 接続を確認する (☞接続のしかた)
- 4) スピーカを取り付ける (☞スピーカを取り付けについて)
- 5) トゥイータ、ネットワークを取り付ける (☞トゥイータ、ネットワークの取り付けについて)
- 6) 配線する
- 7) バッテリーの⊖端子を元に戻す

安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

!：しなければならないことを表しています。

⊘：してはいけないことを表しています。

!：注意をしなければならないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

アドバイス この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

警告

- !** 本機は DC12V アース車専用です。
大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの 24V 車での使用はしない。火災の原因となります。
- !** 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス端子をはずす。
プラスとマイナス経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
- ⊘** 本機を次のような場所には取り付けない。
本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしない。交通事故や怪我の原因となります。
- ⚠** 車体に穴をあけて取り付ける場合は、注意して作業を行う。
車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。
- !** ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用する。
破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。
- ⊘** 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しない。
保安部品を使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。
- ⊘** 本機を分解したり、改造しない。
事故、火災、感電の原因となります。
- !** ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用する。
規定容量を越えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。
- ⊘** 画面が出ない、音が出ないなどの故障状態で使用しない。
そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。
- !** 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談する。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- ⊘** エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機取り付けと配線をしない。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行う。エアバッグ動作を妨げる場所に取付・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。
- ⊘** 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。

注意

- !** 本機を取付・配線には、専門技術と経験が必要です。
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- !** 必ず付属の部品を指定通り使用する。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れることがあります危険です。
- ⊘** 雨が吹き込むところなどの水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避ける。
本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- ⊘** しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避ける。
本機が外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
- ⊘** 直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けない。
金属部分が高温になり、火傷をする可能性があります。また、本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。
- ⊘** 本機の通風孔や放熱板、ファンをふさがない。
通風孔や放熱板、ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ⚠** 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線する。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- !** コードが金属部に触れないように配線する。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。
- !** コードの配線は、高温部を避けて行う。
コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。
- ⊘** コード類を決して切断しない。
コード類には、ヒューズなどが付いている場合があるので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。
- ⊘** 電源用リード線をバッテリーに直接接続しない。
機器を動作させるための電流容量が不足して、バッテリーから直接、電源を取る必要がある場合はバッテリー専用の配線キットを使用してください。
- ⚠** コード等の車内への引き込みは、十分注意する。
雨、水の車内への浸入を防ぐためコード等の車内への引き込みには十分気をつけて作業を行ってください。車内に浸水すると、火災や感電の原因となることがあります。
- ⊘** 本機を車載用として以外は使用しない。
感電や怪我の原因となることがあります。
- ⚠** 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度で使用する。
車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

接続のしかた



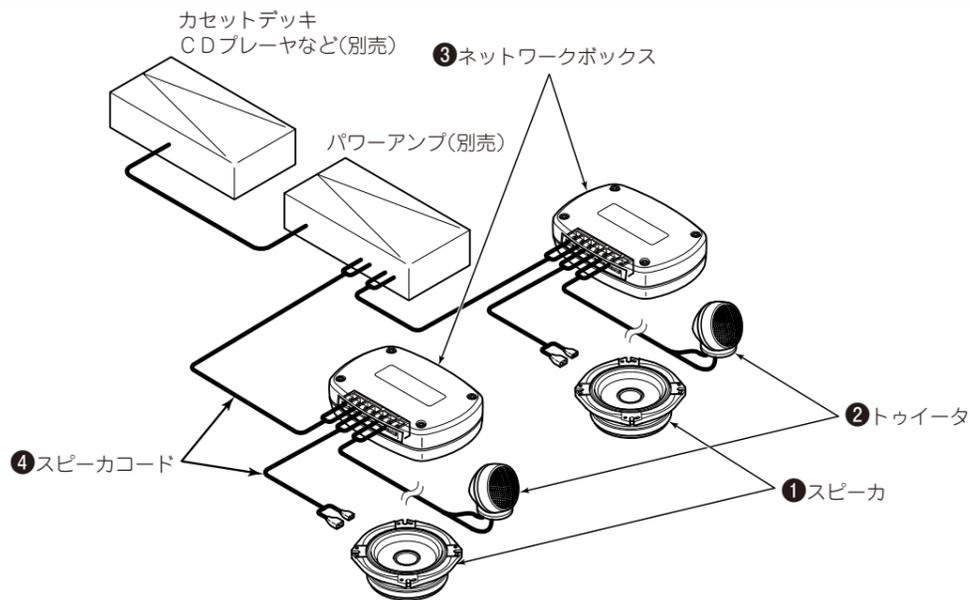
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 本体の取付けは、必ず付属のネジを使用して確実に固定してください。

警告

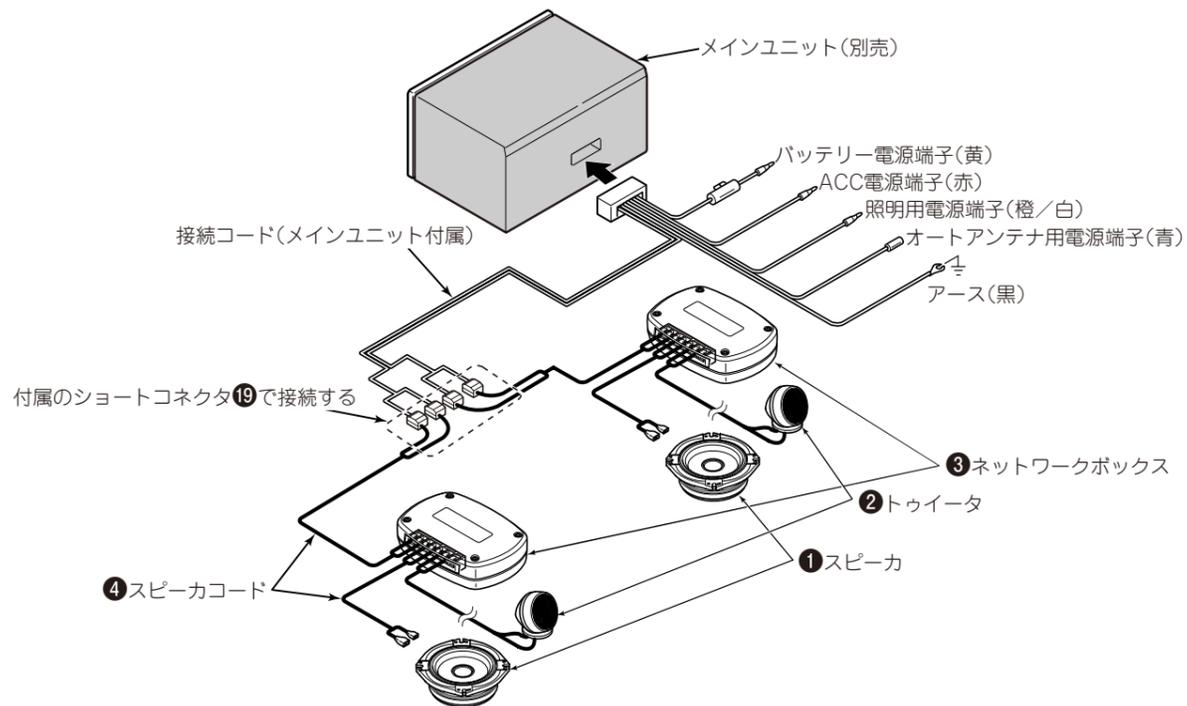
アドバイス

- メインユニットに接続する前にスピーカの取付及び配線を行ってください。
- 機種によりメインユニットの背面端子が異なります。必ず、接続するメインユニットの取付要領書を参照してください。

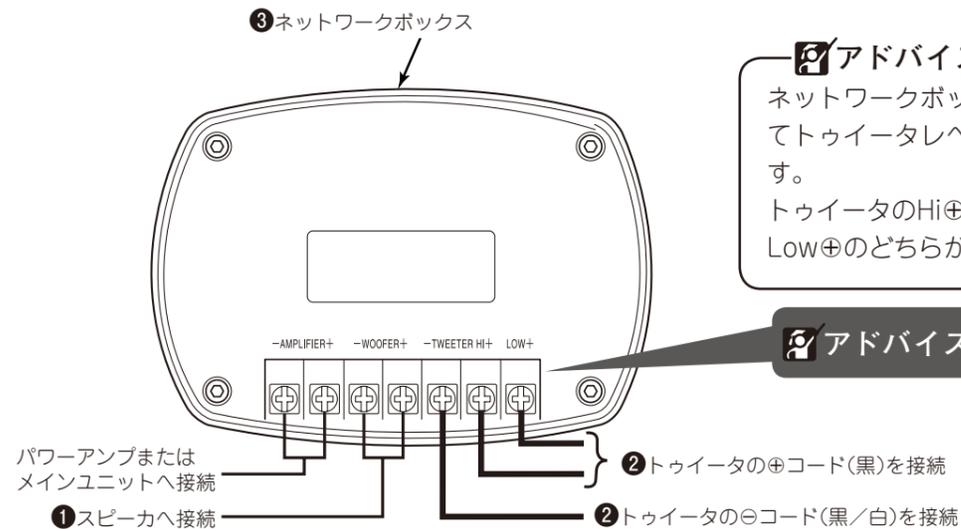
接続例 1：パワーアンプに接続する場合



接続例 2：アンプ内臓メインユニットに接続する場合



トウイーターレベルについて

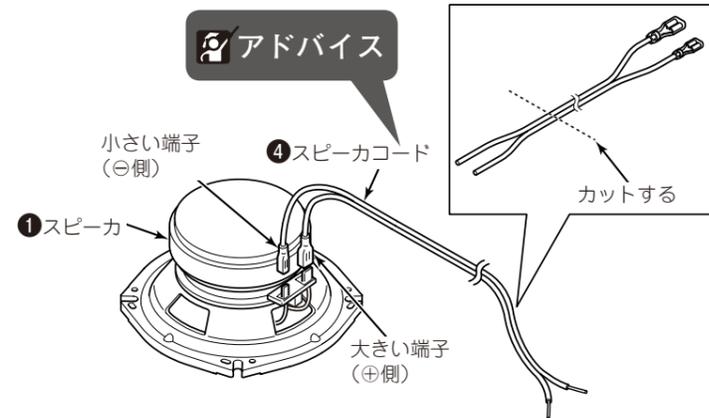


アドバイス
ネットワークボックスはお好みに合わせてトウイーターレベルの切り換えができます。
トウイーターのHi⊕またはLow⊖のどちらかを接続してください。

アドバイス

スピーカの接続例

- 1 スピーカ①とネットワークボックス③の位置を決める。
- 2 スピーカ①からネットワークボックス③までスピーカコード④を引き、必要な分を切断する。
- 3 スピーカコード④の端子をスピーカ①に接続する。
- 4 スピーカコード④をネットワークボックス③に接続する。
- 5 残ったスピーカコード④でネットワークボックス③と、パワーアンプもしくはメインユニットを接続します。必要に応じてショートコネクタ⑱を使用してください。

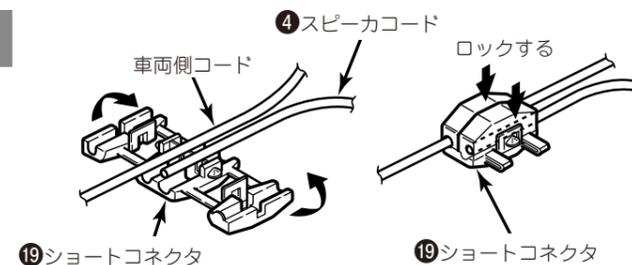


アドバイス

- 余ったスピーカコード④は、切断するかバンドクランプ⑱で束ねて固定してください。

ショートコネクタの使用法

- 1 車両側信号コードにショートコネクタ⑱をかみ込ませる。
- 2 ショートコネクタ⑱のふたをかぶせプライヤー等でロックがかかるまではさみ込む。



●スピーカの取り付けについて



警告

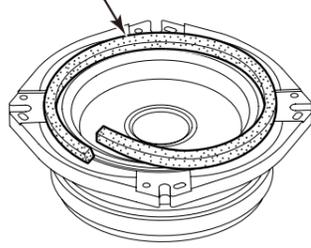
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 本体の取付けは、必ず付属のネジを使用して確実に固定してください。

📌アドバイス

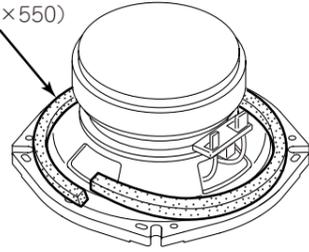
スピーカの外周面にクッションを貼り付け、使用する取付ねじ穴(4ヶ所)のクッション部をカッター等で切り取ってください。

※防振や防水の為、必ずクッションを貼り付けてください。

⑩クッション(8×550)



⑪クッション(10×550)



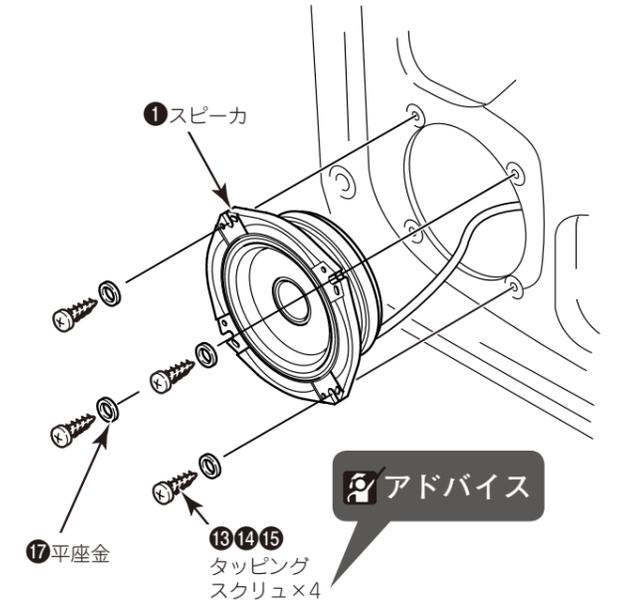
—取り付け例—

- 1 ドアトリム、既設スピーカ等を取り外す。既設スピーカがリベットで固定されている場合は、ドリルでリベットを取り外す。
- 2 スピーカ①を車側(既設スピーカ取付部)に取り付ける。

📌アドバイス

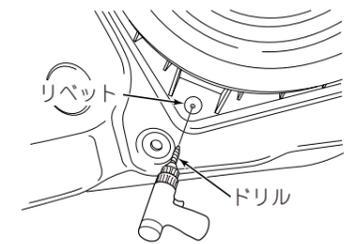
車種により使用するスクリュが異なりますので、車側に合ういずれかのスクリュを使用ください。

- 3 取り外した部品を元通りに復元する。



リベットの除去方法

- リベットのロック部(中心部)にドリルで穴をあける要領で、こじりながら取り除き、リベット本体も取り除きます。
- ※リベットの破片も拾って取り除きます。
- ※取り除いたリベットは、再使用出来なくなります。



トウイータ、ネットワークの取り付けについて

取り付け上のご注意



警告

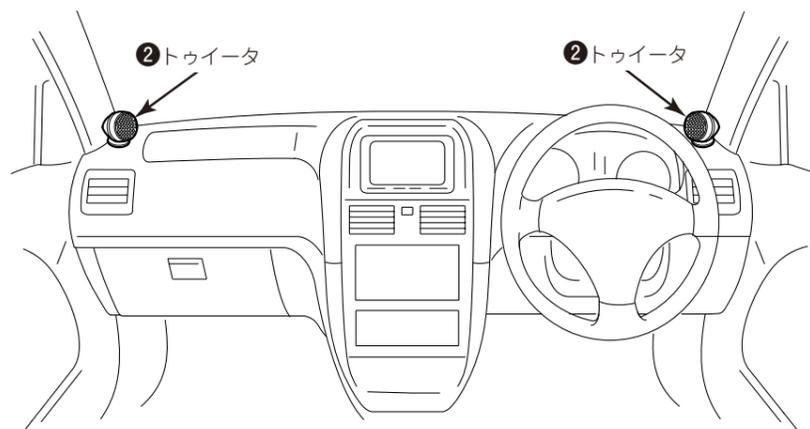
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けないでください。交通事故の原因になります。
- エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない。エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、事故の原因となります。
- 可動部(サンバイザー・エアバッグ部等)へ取り付けない。事故やケガの原因となります。

アドバイス

- トウイータ②は、ダッシュボード、ドアトリム等に取り付けてください。
- エアバッグ、フロントガラス等と干渉しない位置に取付位置を決めてください。

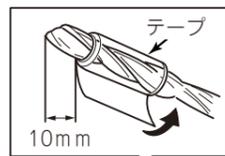
トウイータの取り付け例(ダッシュボードに取り付ける場合)

取付概要図



アドバイス

ドリルの刃が必要以上挿入しないようにドリルの刃の先端から10mmの箇所にテープを巻き付けてください。



注意

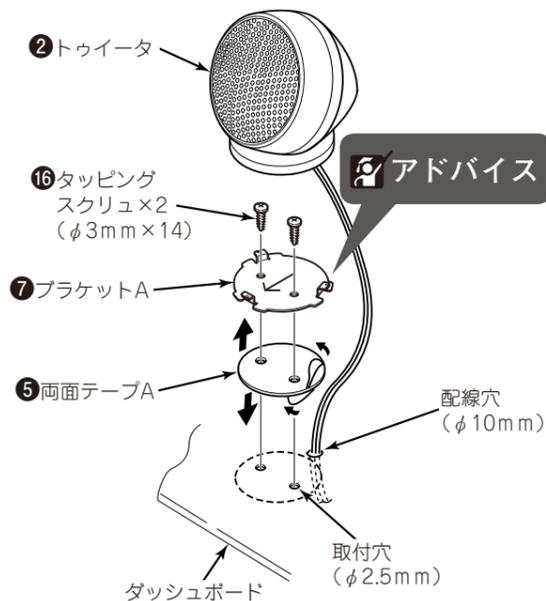
- ドリルを使用する際は、保護メガネ等を使用してください。
- 穴あけ作業を行う際、裏側に車両ハーネス等がないことを確認してください。
- 穴あけ加工部はヤスリがけしてバリ取り処理を行ってください。
- 穴あけ後エアガン等で切り粉を除去してください。



- 1 トウイータ②の取付位置を決め、配線穴をマーキングする。
- 2 ドリル等で取付穴(φ2.5mm)、配線穴(φ10mm)をあける。
- 3 両面テープA⑤のハクリ紙をはがし、ブラケットA⑦の底面に貼り付ける。
- 4 両面テープA⑤のハクリ紙をはがし、ブラケットA⑦をダッシュボードに貼り付ける。
- 5 ブラケットA⑦をタッピングスクリュ⑬で固定する。

アドバイス

ブラケットA⑦の矢印がリスナーの方を向くように取り付けてください。



- 6 ブラケットA⑦にトウイータ②を取り付ける。

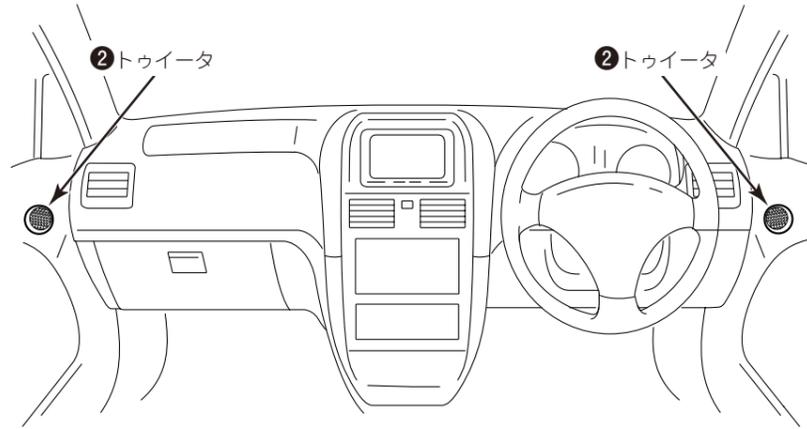
アドバイス

- トウイータ②の溝に合わせて確実に固定してください。
- トウイータ②の取付作業は、右側を表しています。左側も同様に作業を行ってください。

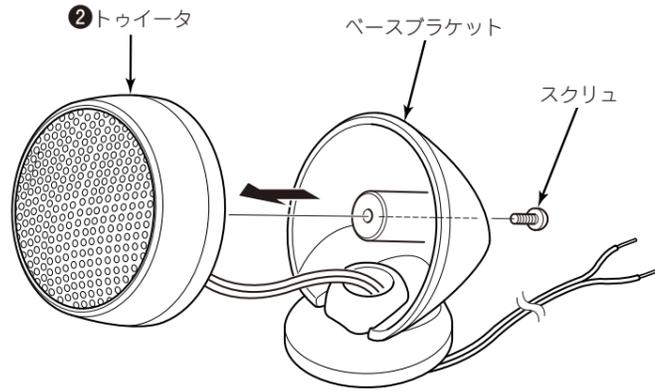


—トウイータの取り付け例(ドアに取り付ける場合)—

取付概要図



1 トウイータ②をベースブラケットから取り外す。

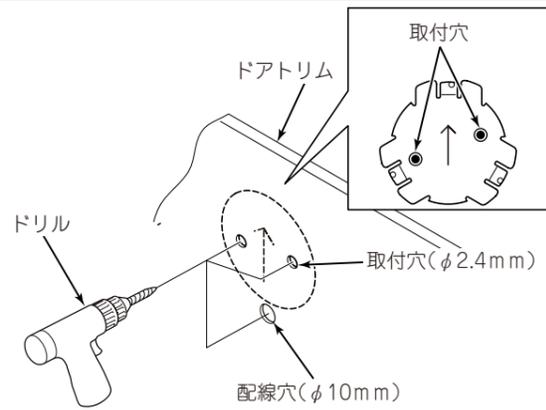


2 トウイータ②の取付位置を決め、ブラケットB⑧を使用し、取付穴をマーキングする。

アドバイス

ブラケットB⑧の矢印が車両上方向を向くように取り付けてください。

3 ドリル等で取付穴(φ2.4mm)、配線穴(φ10mm)をあける。

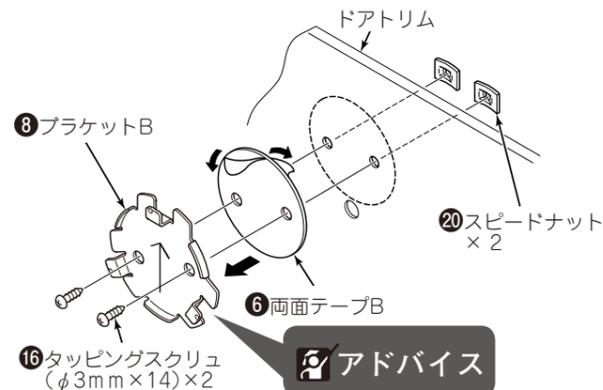


4 両面テープB⑥のハクリ紙をはがし、ドアトリムの取付穴に合わせ貼り付ける。

5 両面テープB⑥のハクリ紙をはがし、ブラケットB⑧を取り付ける。

アドバイス

ブラケットB⑧の矢印が車両上方向を向くように取り付けてください。

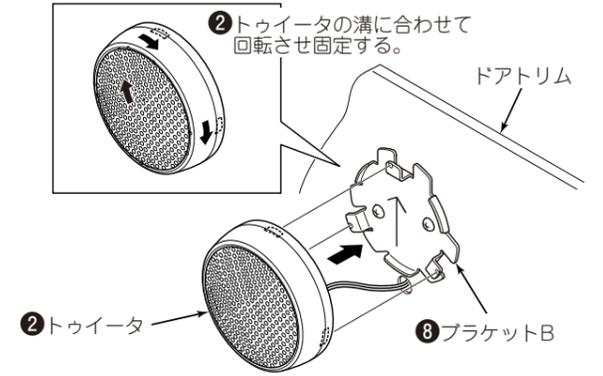


6 トウイータコードを配線穴に挿入し、配線する。

7 トウイータ②をトウイータブラケットB⑧に取り付ける。

アドバイス

- トウイータ②の溝に合わせて確実に固定してください。
- トウイータ②の取付作業は、右側を表していません。左側も同様に作業を行ってください。



—ネットワークボックスの取り付け—

1 ネットワークボックス③の取付位置を決める。

2 ネットワークボックス③のカバーを外し、取付穴をマーキングする。

3 ドリル等で取付穴をあける。

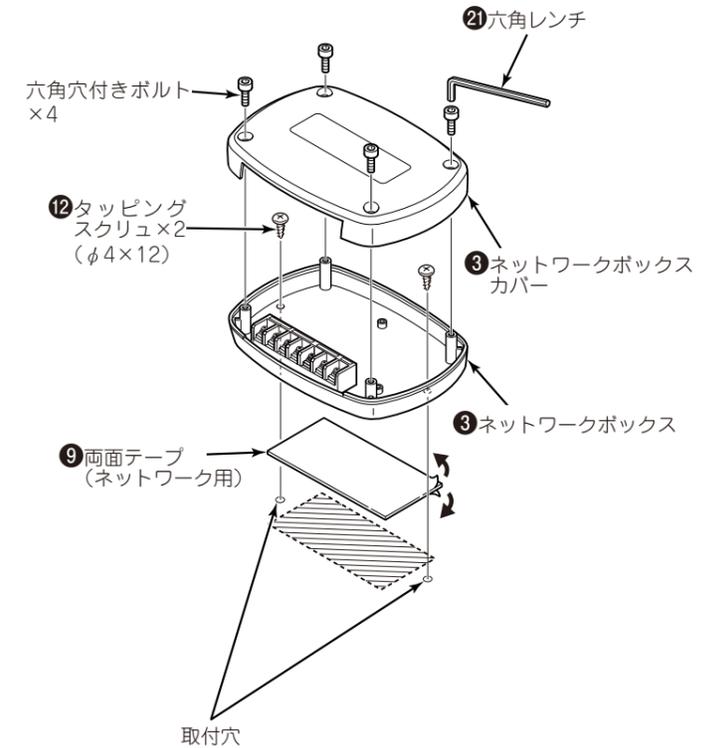
4 両面テープ⑨のハクリ紙をはがし、ネットワークボックス③の底面に貼り付ける。

5 両面テープ⑨のハクリ紙をはがし、ネットワークボックス③を貼り付ける。

6 ネットワークボックス③をタッピングスクリュ⑫で固定する。

7 スピーカ①およびトウイータ②の配線をする。

8 ネットワークボックス③のカバーを戻す。

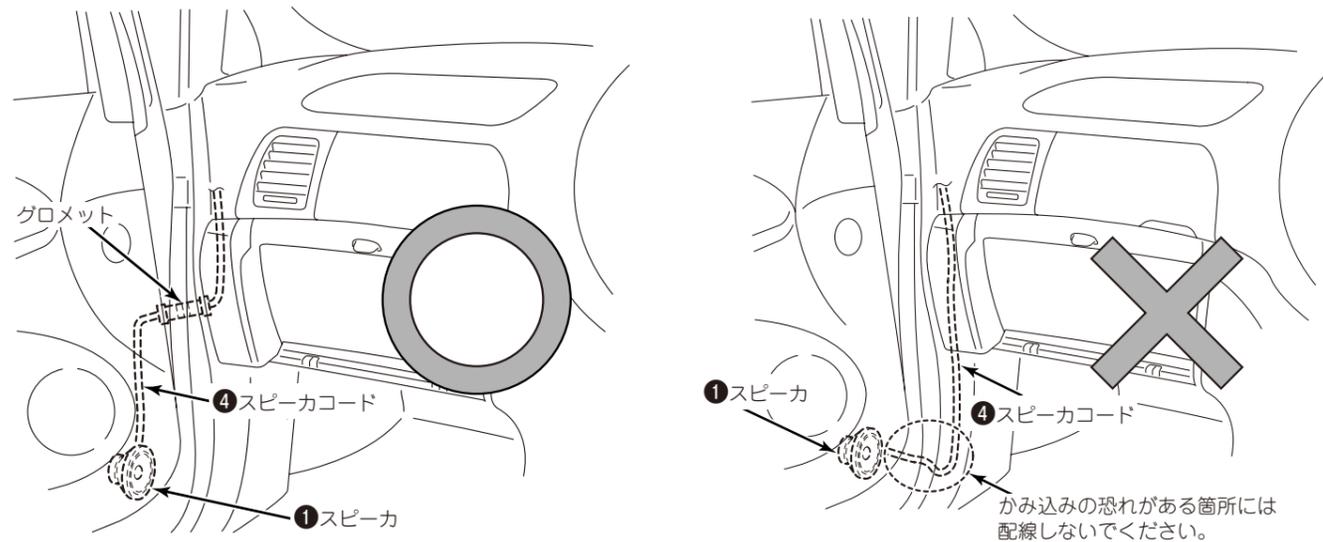


●配線に関する注意事項



注意

スピーカ①とスピーカコード④を接続する際、ドアの開閉時にコードのかみ込みがある場所には、配線しないでください。



●仕様

方 式 :	セパレート2ウェイスピーカ	
ユ ニ ッ ト 口 径 :	ウーファ : 17cm トゥイータ : 4.0cm	
インピーダンス :	4Ω	
定 格 入 力 :	40W	
瞬 間 最 大 入 力 :	120W	
音 圧 レ ベ ル :	89dB	
再 生 周 波 数 :	28Hz~50KHz	
	トゥイータ	ウーファ
外 形 寸 法 :	W67.1×H67.8×D69.3mm	W156×H156×D68.1mm
質 量 :	約155g	約1440g

